

夏から秋にかけて私たちを楽しませてくれた景観形成花壇のマリーゴールドとペゴニア。いよいよ冬を控えて、冬の花にバトンタッチです。



配色を考えながら植え付けを行います

八方原の環境を守る会では11月27日、原田稔裕さんの指導のもとに植え替え作業を行いました。これまできれいに咲いてくれた夏の花を引き上げ、花壇の土を耕しました。肥料を加えて、再度土を切り換えます。そして、冬の花の代表の一つピオラ50余本を、一本ずつ植えました。根元にしっかりと水をやり作業は終了。これから春までしっかりと咲くよう見守っていきます。

花壇の装い替え マリーゴールドをピオラに

地区の歴史を大事にしよう

山口県教育会吉敷支部は八方原や川東地区の歴史を实地に学びたいと11月13日、八方原公民館に約20名が集まりました。

教育会は元教員や教育委員会経験

イノシシ年は終わるけれど



檻の周りには無数の足跡があるのですが

来年はネズミ年、イノシシ年はもうひと月余りですが、本物のイノシシはいよいよこれから活躍の本番です。地区では原田孝夫さんが中心となって、イノシシを捕獲しようと罠を仕掛けたり、大きな檻を作って、そこにイノシシを誘い込もうと努力が続いています。今シーズンも、惜しいところで数回のがしています。イノシシとの知恵比べは続きます。

村の技術を伝える

地域に伝わる技術を子どもたちに伝えようという「むらの知恵・技伝承子どもわくわく体験交流会」が11月18日八方原公民館で行われました。

これは県農林事務所が計画したもので、貴重な技術が廃れないように、また子どもたちと大人が自然に交流できるように考えられたもののようにです。

当日は、「しめ縄づくり」「折り込みチラシを使った箱づくり」「お餅つき」「料理」が行われました。始めは慣れない手つきの子どもたちも、大人の指導で次第に上手になりました。



きれいなしめ飾りができた

者、現職の校長先生などが集まっています。残念ながらこの地区の歴史についてはあまり詳しく語られたものはありません。僅かながらの記述と、地区の言い伝

えをもとに、地元の中村智子さんと八方原の環境を守る会事務局が、来場者に説明しました。岡田の天神様、上組の荒神様などを見て歩きました。こうした史跡はこれからも大事にしたいものです。

